

第11回 大阪府立大学史の試み

著者	山東 功
引用	上方文化研究センター研究年報. 2008, 9, p.15-16
URL	http://hdl.handle.net/10466/10848

を考え、また親のわがままな行動に見えることを理解しなければならない。そこにソーシャルワークの視点の導入が必要なのである。

2. ソーシャルワークとは

さまざまな生活上の困難な問題に対応していく福祉の実践家の事であり、福祉の理念に基づき福祉制度や福祉サービスを利用し、困っている問題に、本人や家族が対処できる能力を高めることである。スクールソーシャルワーカーは学校に拠点を置いて、ソーシャルワークを展開するワーカーである。問題の背後にあるものへのアプローチをし、子どもの行動面にだけ対応しても解決しない点を、先生方にも理解していただくように働きかける。そして、児童相談所などの機関の中に学校も組み入れて、市の体制として教育と福祉を一本化するシステムを作る。スクールソーシャルワークが始まってからは、福祉機関における相談率が約 10 倍に上昇している。従来のスクールカウンセラーとは方法論の違いがあり、スクールソーシャルワークは、本人の心に焦点を当てるのではなく、あくまで生活の視点で家族・学校・地域・本人に関係するすべての環境を考慮に入れて、それぞれの関係性、状況を見て他機関を含めて検討していく。今後広げて行きたいと思うので注目していただきたい。

まだまだ課題はあるが、今日聴いていただいた皆さんに、こういう動きがあることを知っていただき、お母さんが置かれている状況、子どもが置かれている状況を理解し、一人一人に何が出来るかを考えるきっかけになればと思う。

第 11 回 大阪府立大学史の試み

1 月 10 日

山東 功 (大阪府立大学講師)

この大阪府立大学を大学史との関連で見ると、これからどういうことを考えていけばいいのかということをお話していきたい。

1. 大学史とは何か

大学というものが、色々な制度的な変化に従って変わってきた。大学の歴史は何を見ている事になるかというと、大学史とは大学観の変遷史である。

大学史を考える時には、まず「創立」が大きな問題になる。学校教育法に基づく本大学の創立は 1949 年浪速大学の設置である。前身機関も含む創立という見方もあり、1883

年設置の大阪獣医学講習所が創立になると考えられる。

二つめは「校風」を考える。因みに本大学ではウルトラマリンブルーをスクールカラーとしている。校風を雰囲気として考えると、同じような雰囲気の学生が入ってきて、校風を作り出すという事や、大学側が基本理念・教育方針・校訓などを提示して作り出す事もある。

三つめは、大阪府立大学は「高等教育機関」としてどうあるべきか、地域性・時代性・国際性も考える必要がある。

2. 大阪府立大学史への誘い

創立を考えたときに、大阪府立大学創立記念誌は10年史だけであり、創立年代があやふやである。そのために、工学部・農学部を中心に本大学の歴史を再検証する必要がある。

本大学の前身である浪速大学は、四つの工業専門学校と二つの農業系から工学部と農学部ができ、そこに青年師範学校がくっついて教育学部ができる。このようにして1949年設置され、1955年大阪府立大学に改称、教育学部は1957年には廃止される。また1924年設置の大阪府女子専門学校は1949年には大阪女子大学に、1950年設置の大阪社会事業短期大学は、1981年大阪府立大学社会福祉学部となる。1954年には経済学部ができ、1994年に1978年設置の大阪府立看護短期大学が大阪府立看護大学となり、その後2005年には大阪府立大学・大阪女子大学・大阪府立看護大学が統合され、公立大学法人大阪府立大学となる。

3. 大阪府立大学のこれから

最初の三つの問いを考えるに当たって、「創立」では1883年設置の大阪獣医学講習所にする。また「校風」を実学、教養、福祉をキーワードとして考える。高等教育機関としての扱いでいくと、「高度研究型大学」というものをどこまで考えるかということが必要である。

以上、大学史研究で何が見出せるか。まず大事なのは全学的な大学史編纂事業が必要であるだろう。そのために文書館を設置することが必要である。もう一つは、大学を象徴するものを集め、校風を考える意味でどんな学生生活を歩んでいたか、学生生活史を記録しておくことである。さらに大学史というものを考えていくのなら、歴史的裏付けのある事業というブランドを作る。大学ブランドの創設は少し真剣に考えた方がいいのではないか。そういうものを大学史の中からヒントがないかを考えてみた。